社会福祉法人そよかぜの機関紙

そよかぜだより

第113号
発行2013.4.21
年4回発行

社会福祉法人そよかぜ
羽村市栄町3-3-1
☎042-578-0855
fax.042-578-0466

［特集］

そよかぜと資源回収

**市民のみなさまとの大切な接点であり、
そよかぜの事業を縁の下で支えてきた資源回収。
今回はその知られざる過去を振り返り、
現在の状況や未来への展望などを見つめ直してみました。**

ご存じの方も多いと思いますが、そよかぜは地域の障害者福祉の増進に貢献するため、それぞれの目的や特性により三つの種別による事業を展開しています。一つめは、国の社会福祉法制度に基づく社会福祉事業、二つめは、公益を目的にそよかぜが独自に行っている公益事業、三つめは、法人の事業を財政的に下支えするための収益事業であります。今回の特集テーマである「資源回収事業」は収益事業になります。

資源回収事業は、地域の皆様にご協力いただき、主に古紙（新聞、雑誌、段ボール、シュレッダー紙、等）及びアルミ缶プルタブの回収を行い、これを古紙等回収業者に引き取ってもらい、その売上から必要な経費を除いた収益をそよかぜの各事業の資金として活用しています。例えば、そよかぜが公益事業として独自に行っている宿泊訓練施設つくしの家や、本部事務局の運営費に充てられています。

そよかぜが資源回収を収益事業として継続できる要因として、先にも述べました地域の皆様のご協力による回収業者からの売上に加えて、羽村市の「リサイクル推進事業に基づく助成金」の存在があります。ちなみに平成23年度実績では、回収業者からの売上収入額と市からの助成金額は、収入総額（約515万円）のほぼ半々となっています。

資源回収事業は、市内全域を対象に毎月第三日曜日に行っている「第三回収」、羽村団地を対象とした「団地回収」、市内の公立小中学校を対象とした「学校回収」、その他、双葉町、羽中、羽西などの地域や市内･外の病院･企業等々というふうに、皆様のご都合やニーズに合わせて実施しています。また、この資源回収は、福祉作業所ひばり園の作業活動の一部にも取り入れられ、利用者が職員と一緒に回収先を回って引取作業にあたり、工賃収入を得ています。

資源回収事業は、そよかぜが出来た当初からの事業です。この間、各事業の発展に貢献するとともに、市民の皆様との大切な接点でもありました。これからも、一生懸命努めてまいりますので、変わらぬご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

この四台の車が資源回収で大活躍しています。

資源回収の昔と今

平成12年当時の作業風景

いまから35年ほど前、障害児の親たちが作業所作りのために始めた古新聞や古雑誌の回収は「廃品回収」と言われていました。資源ではなく廃品だったのです。家庭で不要になったゴミを集めてお金にしようというねらいですから、「みっともない」とか「乞食のようだ」というかげ口もありました。作業所が出来てから、障害ある人の仕事としての廃品回収もはじめました。前の五ノ神の作業所から羽村団地は、障害ある人たちがリヤカーを引いて行くにはちょうどよい距離でした。企業からの下請け仕事などとても手が届かない重い障害を持った人たちにとって、ほどよい運動と収益を兼ねた仕事でした。今日は1号棟、明日は2号棟と1ヵ月で全棟を廻り、五階まで階段を上り下りして古紙を運ぶ作業は団地住民の方からも喜ばれました。ただ、古新聞等を満載したリヤカーに数人の利用者と職員が張り付き、2台、3台と連ねて町の中を歩く姿は、かげ口も当然だなーと我ながら納得したものでした。

やがて時代は進み、廃品は資源となり、それを回収することは、ゴミの減量と資源の保護に役立つので社会のために有益な仕事になりました。町の人が「ごくろうさま」といってくれるようになって、ありがたいと思いました。ところが、各自治体が全住宅の戸別回収をするようになると全体の回収量は飛躍的に上がり、製紙原料としての古紙がダブついてきました。単価は下落し、ついにはマイナス単価となった時さえありました。かって町の中を朝から晩まで「ご家庭でご不要になりました古新聞、古雑誌……」とうるさいほど走っていたチリガミ交換の業者はぴたりと消えてなくなりました。いま私たちは福祉団体として行政からの補助金に支えられて回収を続けています。どんなに単価の変動があっても私たちが回収をやめることはありません。長年ご協力いただいた方方への責任もあり、さらに利用者の中には車に乗って町へ出て身体を動かす仕事がなくてはならない人たちがいるからです。30年ほどたって、回収作業の意義は、再びリヤカーの時代の原点に帰ってきたように感じています。（西岡英一）

地域のボランティアも応援します

左の三枚の写真は第三回収でのひとこま。左：10年以上続けて参加してくれている岩田さん（左）と、その同僚の福島さん。中：「もう習慣よ!」と、第三回収30年のベテラン田中さん（右）と、千本さん。田中さんは賄い、千本さんはコース案内と大活躍されています。右：お昼の賄いは田中さんお手製のカレーライス。

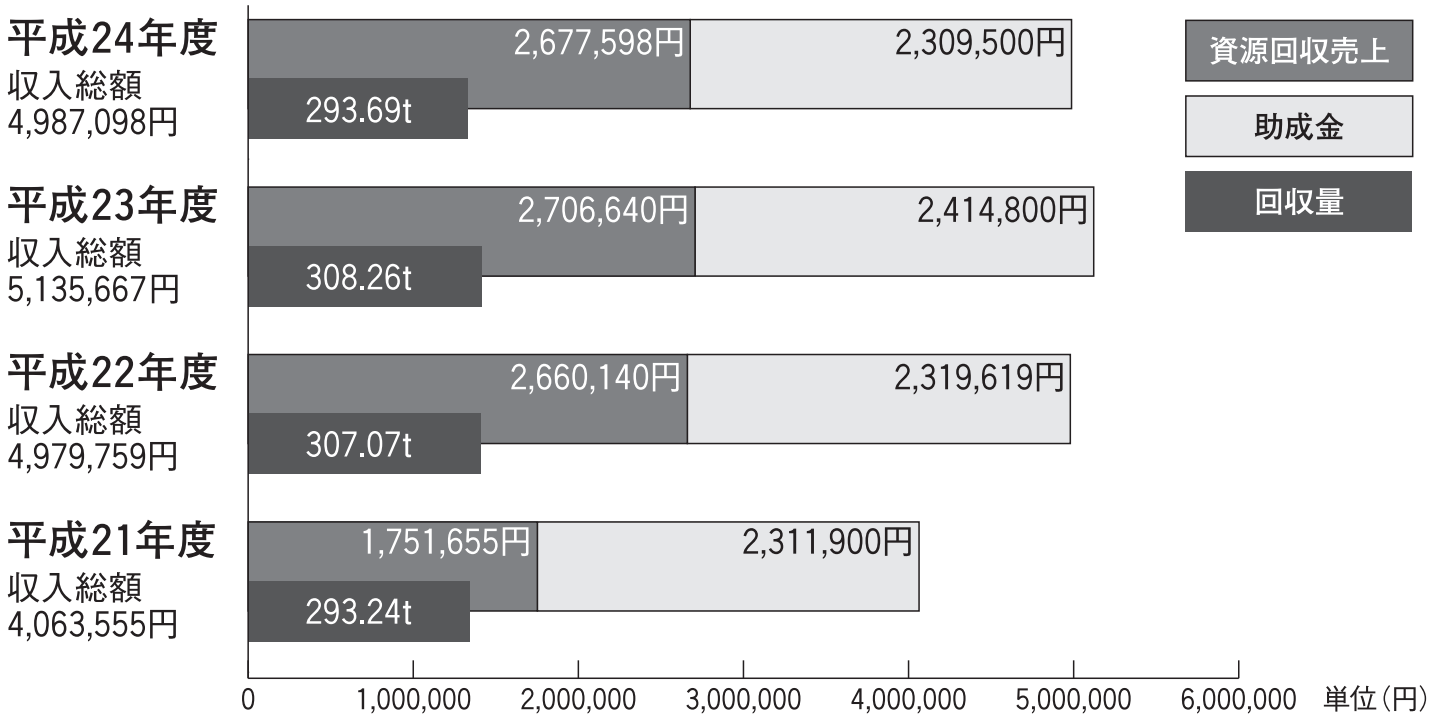
毎月第二第四月曜日に行っている「団地回収」では、ドライバーとして、第三日曜日に行っている「第三回収」では、ドライバーやコースの案内役、賄い担当と、地域の方々がボランティアとして参加し、役割分担をして市内のみなさまのお宅をまわっています。

平日は、ひばり園の利用者と職員が作業活動の一部として、羽村市近隣の小売業、製造業などのさまざまな一般企業、医療機関や保育園・幼稚園、羽村市内の小中学校、給食センターなどの公的機関や、市民のみなさまのお宅などへ、回収作業にまわっています。

このように、そよかぜの資源回収は、地域のみなさまによる、たくさんのご協力によって支えられています。

収入の推移

地域のみなさまのご協力もあって、ここ数年安定した回収量と収入を得ています。
回収業者からの売上収入と、羽村市の「リサイクル推進事業に基づく助成金」が、
そよかぜの各事業の運営資金となっています。



回収可能な古紙

新聞紙

雑誌・雑紙

ダンボール

シュレッダー紙

資源回収事業は、今までも、そしてこれからも、
市民の皆様のお力添えを頂いて初めて成り立つ事業です。
また、そよかぜが推進する障害者福祉事業に
なくてはならない大切な事業でもあります。
私たちは、これからも皆様に応援していただけるよう
精一杯頑張ってまいります。
今後とも末長く、応援よろしくお願いします!!

［平成25年度 事業計画］

ニーズに応える柔軟性を

堀内政樹　社会福祉法人そよかぜ施設長

本年度は、障害者自立支援法にかわる障害者総合支援法の施行、企業等の障害者法定雇用率が1.8%から2.0%に改定、また、国等による障害者施設等への物品等の調達の推進に関する法律（障害者優先調達推進法）の施行など、障害者福祉サービス事業を取り巻く環境は引き続き変化していますが、状況に即応した事業運営に努めてまいります。

昨年度に引続き地域の障害者福祉のより一層の発展・増進を図るべく、社会福祉事業4、公益事業2、収益事業1の7つの事業を実施してまいります。

社会福祉事業は、福祉作業所ひばり園（就労移行支援事業（定員8名）、就労継続支援B型事業（定員70名））、福祉作業所スマイル工房（就労継続支援B型事業（定員20名））、グループホームほほえみ館（共同生活介護（定員2名）、共同生活援助事業（定員2名））の4つの事業を実施してまいります。

ひばり園の就労移行支援では一般就労に向けたビジネス訓練（ビジネスマナー全般、公共交通機関利用、他）、作業訓練（手順書に基づく清掃作業、パソコン入力、室内系作業、他）などを行います。同じく就労継続支援B型では、自動車部品組立、農業機械部品の個装、市指定ゴミ袋のパッケージ、リサイクルショップの運営、古紙回収などを行います。スマイル工房は、パン・クッキーの製造販売、室内軽作業等を行います。

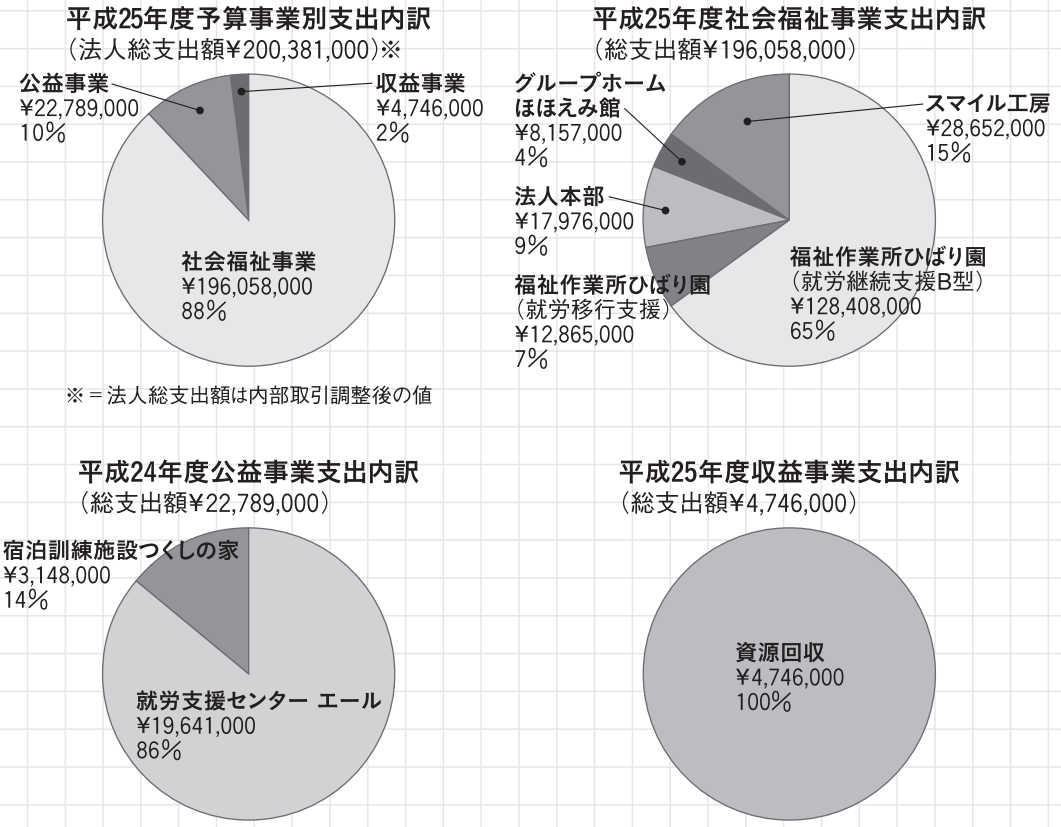
グループホームほほえみ館は、一般就労や福祉作業所へ通所しながら地域自律を目指す利用者に生活の場を提供します。

公益事業は、宿泊訓練施設つくしの家事業と羽村市障害者就労支援センターエール事業を行います。つくしの家は障害者の地域自律生活移行を目的として宿泊や夕食体験を提供するとともに、本年度は、施設をより一層活用するため、様々な可能性にチャレンジします。エールは、本年度から職員体制の強化（2名増員）を図り、増加する障害者の一般就労相談ニーズに応えてまいります。

収益事業は、そよかぜの各事業を資金的に応援するため、資源回収（古紙・アルミ缶プルタブ）を行います。本事業には、市民の皆様、市内の小・中学校、事業所など多くのご支援をいただいております。

本年度も、そよかぜは地域の障害者福祉の発展・増進に役職員一丸となって取り組んでまいります。変わらぬご支援を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

平成25年度 社会福祉法人そよかぜ予算額



【そよかぜコラム】
作業能力も休みの日には役立たず
人生を楽しむコツは、一人の時間をどう過ごすか

その術がないと 中高年になってツケがきます

日曜日、だれもいないひばり園に出てくる人がいます。建物の中には入れませんが駐車場の隅においてある物置は鍵が閉まってないので入れます。物置の中には資源回収で集めてきた古新聞や古雑誌が積んであり、もうひとつの物置にはみなさまからいただいたプルトップがビニールの袋などに入って雑然と転がっています。月曜日の朝、物置の戸を開けてみると明らかにだれかが片付け整理した痕跡が見えるのです。細部をみるとかなり手直しが必要ではありますが、本人としてはたっぷり時間をかけて一生懸命やったらしい形跡がありありとみえます。私には、それが誰であるか一目で分かるのですが、本人が何も言わない以上、私の方から問い詰めることはありません。

土曜や日曜日に出てきて、物置の中で仕事をしても、それは勤務ではないので給料はもらえません。自主的なボランティア活動ですが、やったことを本人が秘密にして誰にも言わないので、人から誉められることもありません。毎週では、することがなくなるので一ヶ月に一回ぐらいです。

悪いことをしているわけではないのになぜ秘密にするのでしょうか。その理由は、「なぜそんなことをするのかという動機」に深い関係があります。ひばり園のためにボランティアを、ということなら立派なことですから秘密にする必要はありません。実は、家にいてもすることがない、退屈で仕方がない、パチンコはできるけれど資金がない、自分が一人でできて時間がつぶせることはひばり園の仕事だけ……このように考えてたどり着いたのがひばり園の物置でした。あまりにも個人的な動機ですから、なんとなく人にいうのは後ろめたい気がしているのです。

この人は長いあいだ一般企業で働いた経験があって作業能力は高く、ひばり園ではトップクラスです。ただ残念なことに仕事以外に趣味がなく、ひばり園から離れるとなにもすることがありません。利用者の中には、この人よりも障害が重く作業能力は低いのに自分なりの趣味を持っていて、ひばり園の休みを楽しみにしている人もいます。日曜日に人目を避けて物置の中でごそごそと過ごすのと、好きなことをして目を輝かせて一日を過ごすのでは、その違いは計り知れないほど大きなものがあるでしょう。長い人生をトータルしたとき、「楽しかった」と納得して終わるのと、「つまらない」とぐちをこぼして終わることの違いは、仕事を離れた自分の時間をどう過ごしたかにかかっていると思います。

前回のそよかぜだよりで、今の特別支援学校高等部は生徒の企業就労を重視するあまり職業訓練偏重となっている。教育の目的は豊かな人間性であり納税者の育成ではないはずと疑問を呈しました。「豊かな人間性」を具体的にいえば、仕事を離れたときに有効に時を過ごす能力ともいえます。この能力がどの程度あるかによって人生を楽しくできるかどうかが決まります。

ひばり園の利用者の中には、バスに乗ることが大好きな人がいます。時には高速バスに乗って遠くへ行きますが、宿泊しないで帰ってくるだけですから心配はいりません。鉄道が好きで、ひまさえあれば機関車や車両を見に行く人もいます。これらは若い人たちですから歳と共に好みが変るかもしれませんが、仕事以外に夢中になって打ち込めるものを持っているわけですから、そのような気持ちの持ち方、心の訓練はできているので何歳になっても何かを見つけることでしょう。さらに、音楽、絵画、書道その他の芸事などを持っていれば充実した人生のために大いに役に立つことでしょう。

これらを身につけることができるのは若いときに限ります。もっとも感受性が豊かな時期つまり思春期、言い換えれば高校時代です。このころ身に触れたことなら心の中に沁み込みます。先に紹介した人はもう六十歳を超えています。この人が高校に行く頃はまだ養護学校がなかったので、中学卒で働いたはずです。いまから「人生の潤い、味付け」を身につけることは不可能です。

経済学において支払い猶予期間を意味する「モラトリアム」という用語を大人になることを猶予されている期間という意味でエリクソンが用い、日本の精神科医の小此木啓吾が、大人でも子供でもない「青年期」という意味で日本社会に流布させました。義務教育終了後から社会的自立をするまでのこの時期を保障することがもっとも大切で、日本の若者には高校、大学の6、7年間がそれであり、この時期の大切さは、他に代えようがないといいました。

ところで、障害のある人は普通の人よりゆっくり成長します。したがって普通の若者より長い「モラトリアム期間」が保障されてしかるべきなのに、わずか高校時代の3年間しかありません。その、貴重な3年間を職業訓練だけで終わらせるのはあまりにももったいないのです。教育とは即戦力を育てるのではなく、その人が人生の後半になって、じわっと利いてくるような生きる術を教えるものであってほしい、と中高年の人が多くなったひばり園の利用者を見てつくづく思います。

（西岡英一）

【平成25年度 社会福祉法人そよかぜ 役員構成】

理事長 野崎功市
副理事長 宇津木牧夫
理事 増田常夫
堀米恵子
西岡英一
堀内政樹

監事 羽村義男
加藤照夫

評議員 水上京子 橋本唯隆 橋本芳明
田村義明 田口尚子 羽村富男
臼井信行 並木伸子 丹生忠三
川津紘順 櫻澤邦雄
井上克巳 清水啓治

各事業所からのお知らせ

福祉作業所ひばり園

昨年の11月、福生健康マラソン5kmの部に出場しました。今までは立川昭島マラソン3kmの部に出場していましたが、10kmの部になったので、福生健康マラソンに出場するようにしました。10時半にスタートし競技場を1周、福生中央公園を折り返してまた競技場を1周しゴールしました。ぼくもみんなに負けないように一生懸命に走りました。汗がびっしょりで拭いても拭いても出ました。楽しいマラソンでした。(池田忠隆)

就労移行支援では、平成24年度に5名の就職が決まりました。就職先は様々ですが、それぞれ職場で活き活きと活躍しています。ひばり園は祝祭日でも通常通りの活動をしていることが多いので、OB・OGが集まり、職場での様子や休日の過ごし方などについて話が弾みます。普段は少人数ですがこの日ばかりは同窓会の様に賑やかになります。今年度は就労継続支援B型から、就職を目指して就労移行支援に移る利用者さんが数名います。就職者の姿がかっこよく映り、いい刺激となったのでしょうか。

リサイクルショップくれよん

春物セールも一段落したところで、夏物の品出し作業をしています。その他、ガラス食器のセールも予定しています。みなさまのご来店をお待ちしています!

福祉作業所スマイル工房

スマイル工房のパンは、月4～6回程度、火・金曜日の午前中に焼きます。リサイクルショップくれよんと羽村市農産物直売所で販売しています。6月上旬頃までは期間限定の“抹茶あんぱん”、6月上旬頃からは夏期限定の“カレーパン”と“ピロシキ”の販売を予定しています。新作の“ごまクリームチーズパン”も好評です。数には限りがありますので、売り切れの際はご容赦ください。

障害者就労支援センター エール

「エール」は、羽村市より社会福祉法人そよかぜに委託された障害者就労支援事業です。羽村市在住の障害のある方を対象に、就職を希望している方や働いている方などからの相談を受け、支援を行っています。

利用時間：月曜日～金曜日、午前9時～午後5時。今年度の第一土曜開所日は、6/1、7/6、8/3、9/7、10/5、11/2、12/7、2/1、3/1です。

※ご相談には予約をお願いします。

宿泊訓練施設つくしの家

グループホーム、施設などに入所する前の「親離れ、子離れ」の訓練をするところです。

グループホームほほえみ館

昨年11月より、新たな世話人体制で動きはじめました。利用者さんにも受け入れられ、生活のベースを崩すこともなく、共にがんばっています。いろいろあっても会話が弾み笑顔を見せてもらえるのが、この上ない喜びです。

資源回収のお問合せは「ひばり園」へ。

編集後記

今号のそよかぜだよりは、締切ギリギリなんとか発行日に間に合いました。編集作業が年度末年度始めにかぶさり、各担当が様々な仕事を平行して行っていた云々……。限られた勤務時間の中でどれだけベストな結果を出せるか、その結果に至るまでの過程は、効率的で自分の仕事として胸を張れるものだったのか、そのことを常に意識し、やれない言い訳を考えるより、やれる理由を見つけられる社会人でありたいと思った4月です。

各事業所の連絡先

福祉作業所ひばり園 ☎042-578-0855
福祉作業所スマイル工房 ☎042-578-2723
リサイクルショップくれよん ☎042-578-2575
羽村市障害者就労支援センター エール ☎042-570-1233
羽村市心身障害者宿泊訓練施設つくしの家 ☎042-579-6849
グループホームほほえみ館 ☎042-578-2875